

日本プロテオーム学会 2022 年大会

JPrOS2022

(JHUPO 第 20 回大会)

開催趣意書

2022 年 3 月吉日

日本プロテオーム学会 2022 年大会
大会長 小寺義男
北里大学理学部物理学科

ご挨拶

謹啓

平素は日本プロテオーム学会に対してご高配を賜り、格別なご支援を頂いておりますことを厚くお礼申し上げます。

さて、この度、本学会では日本プロテオーム学会 2022 年大会（JHUPO 第 20 回大会）を 2022 年 8 月 8 日から 10 日の日程で開催させていただくこととなりました。

日本プロテオーム学会（Japanese Proteomics Society : JPrOS）は、2002 年に設立された日本プロテオーム機構（JHUPO）を母体とし、2009 年に多様な生物種を対象としたプロテオーム研究全体を推進することを目的に設立されました。国際的な学術組織であるヒトプロテオーム機構（HUPO）の日本側対応機関としての役割を担うとともに、国内のプロテオミクス研究の発展や若手研究者の育成に努めています。また、本年 7 月に日本学術会議登録団体として正式に認められました。現在は 800 名を超える大学・学術研究機関および企業の研究者、研究支援者、大学院生などが学会員として登録されています。

日本プロテオーム学会は 2019 年まで毎年日本各地で年大会を開いており、全国各地から 300 名～400 名の大学や学術研究機関および企業のプロテオミクス研究に関わる研究者、研究支援者、大学院生が参加してきました。プロテオーム解析の最新技術、基礎生物学から農学・医療への応用、インフォマティクスなど幅広い研究成果の発表と議論の場、そして、多くの関連企業の皆様とランチョンセミナーや展示ブースを通じた最新技術・分析装置などの情報交換の場として開催してまいりました。しかし、昨今の新型コロナウイルスの感染拡大による各種活動の自粛に伴い、本学会においても 2020 年大会は中止、2021 年大会はオンライン開催を余儀なくされました。こうした中、新たな発見を目的とする研究にとって、様々な分野の専門家が、対面で、自由に、熱く議論し、語り合うことの重要性が再認識されてきています。そこで 2022 年大会は、HUPO ReConnect にちなみ、” JPrOS ReConnect” を合言葉に北里大学相模原キャンパスにおいて対面で開催することを目指しております。

今年は JHUPO 設立から 20 年目を迎えます。

この間、プロテオーム解析技術ならびにその関連技術は大きく進歩し、様々な分野におけるプロテオミクスの重要性が高まってきています。JHUPO 第 20 回大会である本大会は、多くの皆様がコロナ禍を乗り越え一堂に会し、発展著しいプロテオーム解析の最新技術、基礎生物学から農学・医学への応用、データサイエンス、プロテオミクスがリードする統合オミクス解析、細胞と分子をつなぐ生命システム研究などの幅広い研究成果の発表と議論、そして、ランチョンセミナーや展示ブースを介した最

新技術・分析装置などの情報交換を再開する場として開催したいと考えております。

つきましては、2022年大会の開催に当たりまして本大会の趣旨にご賛同いただき、貴社のご協力を賜りたくお願い申し上げます。ランチョンセミナーや開催期間中の展示会、要旨集への広告、または賛助金の形でのご支援など、ご意向に沿った対応が可能です。是非ともご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

末筆で恐縮ですが、貴社の益々のご発展をお祈り申し上げます。

謹白

2022年3月吉日

日本プロテオーム学会 2022年大会

大会長 小寺義男



日本プロテオーム学会 2022 年大会 (JHUPO 第 20 回大会) 開催概要

1. 会議の名称

日本プロテオーム学会 2022 年大会 (JHUPO 第 20 回大会)

※日本プロテオーム学会 2022 年大会は JHUPO 第 20 回大会に対応しますので併記
しています。

※日本プロテオーム学会 2022 年大会の略称を“JPrOS2022”としています。

2. 主催機関及び責任者

主催機関 日本プロテオーム学会

責任者 会長 小寺義男 (北里大学理学部 教授)

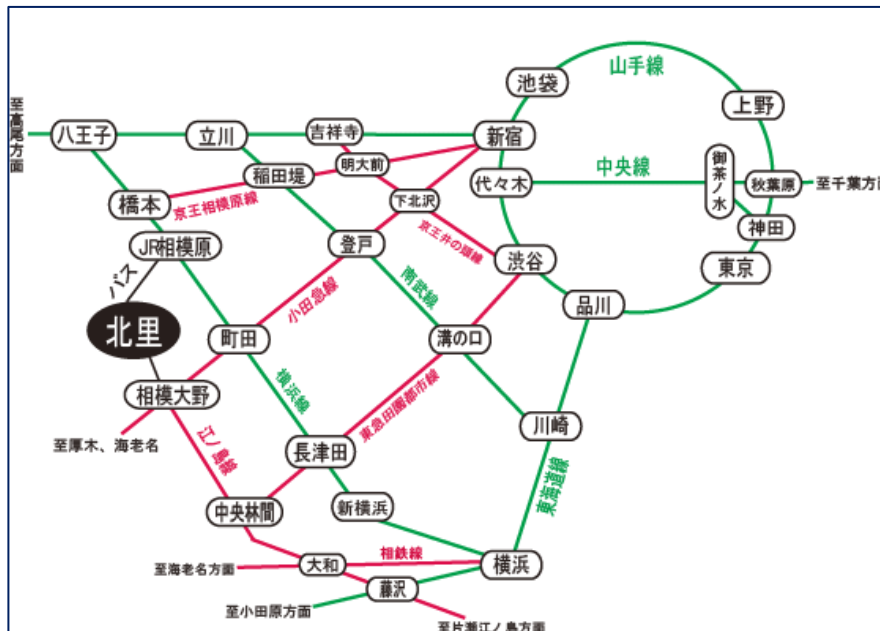
3. 学会開催の予定

開催日程：2022 年 8 月 8 日 (月) ～ 10 日 (水)

開催場所：北里大学相模原キャンパス

〒252-0373 神奈川県相模原市南区北里 1-15-1

Tel : 042-778-8111 (代), Fax: 042-778-9953



4. 会議の目的

プロテオミクスをキーワードに幅広い分野の研究に関わる者が一斉に集い、単なる情報交換のみならず、熱い議論を交わす場を提供することを目的とします。特別講演、受賞講演、シンポジウム、ポスターに加えランチョンセミナーや展示を通して産学官の親睦を深め、オミックス研究の中核に位置するプロテオミクス研究をより活発にす

ること、さらに、コロナ禍で途絶えた研究者とプロテオミクスを支える企業の皆様との情報交換を再開するための大会を企画します。

5. 会議の概要（詳細は次ページのプログラム概要をご覧ください）

- (1)大会 テーマ：JPrOS ReConnect
- (2)参加予定人数：400名（予定）
- (3)プログラム概要：詳細下記（予定）
- (4)使用言語：日本語（英語の招待講演あり）

日付	午前	昼	午後
8月8日 (月)		基調講演	教育講演 シンポジウム紹介
8月9日 (火)	特別講演 シンポジウム	ランチョンセミナー ポスター発表	基調講演 特別講演 シンポジウム
8月10日 (水)	特別講演 シンポジウム	ランチョンセミナー ポスター発表	シンポジウム 表彰式・受賞講演

6. 寄付等を必要とする理由

本大会を主催する日本プロテオーム学会は、日本ヒトプロテオーム機構(Japan Human Proteome Organisation, JHUPRO)を主宰すると共に、我が国におけるプロテオーム研究の普及をはかり、その発展に寄与するため、医学、薬学、農学、理学、工学等の広い分野の基礎から応用に至る研究活動に大きく寄与してまいりました。2022年は関東近郊の相模原市で開催し、300名を超える参加者を見込みますが、学生をはじめより多くの皆様にご参加をお願いするため手頃な参加登録料を設定する予定です。さらに、プロテオミクスの重要性が認知されつつある今、より多くの分野の研究者、技術支援者に最新のプロテオミクスを無償で提供するために一部のセッションは無料でオンライン配信をする予定です。

本大会に要する総経費は、10,000千円程度を予定しており、展示会、ランチョンセミナー、要旨集への広告等によるご支援が不可欠となります。是非、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

7. お問い合わせ先

JPrOS2022 事務局
〒252-0373 神奈川県相模原市南区北里 1-15-1 北里大学理学部
TEL：042-778-9539, FAX：042-778-9953
E-mail：jpros2022@jhupo.org

大会スケジュール概要(予定)

前日 [8月7日 21:30~24:00]

Pre-congress webinar「Top-Down Proteomics」

- ◆ トップダウンプロテオミクス・プロテオフォーム研究を世界的に牽引している研究者が最新の知見を紹介し、日本におけるトップダウンプロテオミクスの本格的な普及に向けて議論をおこなう。

第1日 [8月8日 12:30~19:30]

A会場 (定員 500名)	B会場 (定員 250名)
基調講演1 講師:田中耕一先生	
教育講演 プロテオミクス全般に関する最新技術とその応用研究の紹介	
JPrOS のアクティビティ紹介 学会誌 2 誌の紹介、jPOST の紹介	ワークショップ「JPrOS Vision」学会のロードマップ、プロジェクト提案、グローバル化
2日目、3日目のシンポジウムの概要紹介 各シンポジウムを約5分で紹介し、大会の全体像を伝える。	大学院生、若手研究者を対象とした職のマッチング 大学院生、若手研究者を対象とした就職・転職のマッチング
JPrOS 20年の歩み	研究のスキルアップ 論文執筆、研究費獲得、共同研究の進め方に関する共有・議論

第2日 [8月9日 9:30~19:30]

A会場 (定員 500名)	B会場 (定員 250名)
特別講演1 講師:朝長 毅 先生	シンポジウム2 日本蛋白質科学会・日本プロテオーム学会合同セッション
シンポジウム1 疾患プロテオミクス :病態の理解から治療法の開発へ	
ランチョンセミナー	
ポスターセッション(90分)	
基調講演2 Prof. Akhilesh Pandey	
企業ブース&コミュニケーションタイム(45分)	
シンポジウム3 次世代のプロテオミクスを担う最先端技術	シンポジウム4 生理活性ペプチドが拓く新たな世界
特別講演2 講師:小原 収 先生	
シンポジウム5 タンパク質翻訳研究とオミクスの融合	シンポジウム6 データベース・データ解析

第3日 [8月10日 9:30~18:00]

A会場 (定員 500名)	B会場 (定員 250名)
特別講演3(KHUPO との交換講演)	シンポジウム8 学生発表:優秀発表賞の選考
シンポジウム7 機能プロテオミクス	
ランチョンセミナー	
ポスターセッション(90分)	
シンポジウム9 オールジャンル(指定演者:活発な若手研究者)	シンポジウム10 オールジャンル(指定演者:活発な中堅研究者)
総会	
学会賞授賞式、受賞講演	

- ※ ポスターセッション：密を避けて4つの時間帯に分けて開催。十分な時間を確保し、研究者間の活発な議論と交流を促す（ポスターセッション：計3時間）。
- ※ 企業ブース&コミュニケーションタイム：展示ブースを介した最新技術・分析装置などの情報交換、研究者間のコミュニケーションの促進

8. 大会組織委員 (敬称略)

大会長 小寺義男 (北里大学)

副大会長 紀藤圭治 (明治大学)
松本雅記 (新潟大学)

実行委員会 (50音順)

足達俊吾 (産業技術総合研究所)
足立 淳 (医薬基盤栄養・健康研究所)
荒川憲昭 (国立医薬品食品衛生研究所)
川島祐介 (かずさ DNA 研究所)
木下英司 (広島文教大学)
榊原陽一 (宮崎大学)
杉山直幸 (京都大学)
曾川一幸 (麻布大学)
武森信暁 (愛媛大学)
長塩 亮 (北里大学)
肥後大輔 (サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社)
松井 崇 (北里大学)
松本俊英 (北里大学)
増田 豪 (熊本大学)
若林真樹 (国立循環器病研究センター)

プログラム委員 (50音順)

委員長 石濱 泰 (京都大学)
委員 荒木令江 (熊本大学)
岩崎未央 (京都大学)
河野 信 (富山国際大学)
紀藤圭治 (明治大学)
木村弥生 (横浜市立大学)
小寺義男 (北里大学)
武森信暁 (愛媛大学)
田中恒平 (田辺三菱製薬株式会社)
増田 豪 (熊本大学)
松本 雅記 (新潟大学)